

平成30年度子ども・子育て関連予算事業について

1. 樽川エリア子ども・子育て支援機能検討事業 p 1 ～ p 5
2. 子育て世帯と若者に関する生活実態調査 p 6



樽川エリアの児童数の状況

- 樽川5条の宅地開発により2014年度から2017年度にかけて就学前児童数が200人以上増加
- 児童数増の影響は、小学生では2019年度あたりから、中学生は2026年度から表れ始める見通し
- 市全体の学童保育の需要は保護者の就労ニーズの高まり応じ今後も伸びる見通し
- 南線小学校区の学童保育の需要は既に供給を超え、定員の120%で受け入れを行っている状況
- 児童数の増加の影響が出始める2019年度から2021年度にかけて、受け入れ体制のさらなる拡大を想定した検討が求められる

図1

樽川3～7条エリアの子ども数の現状と見込み

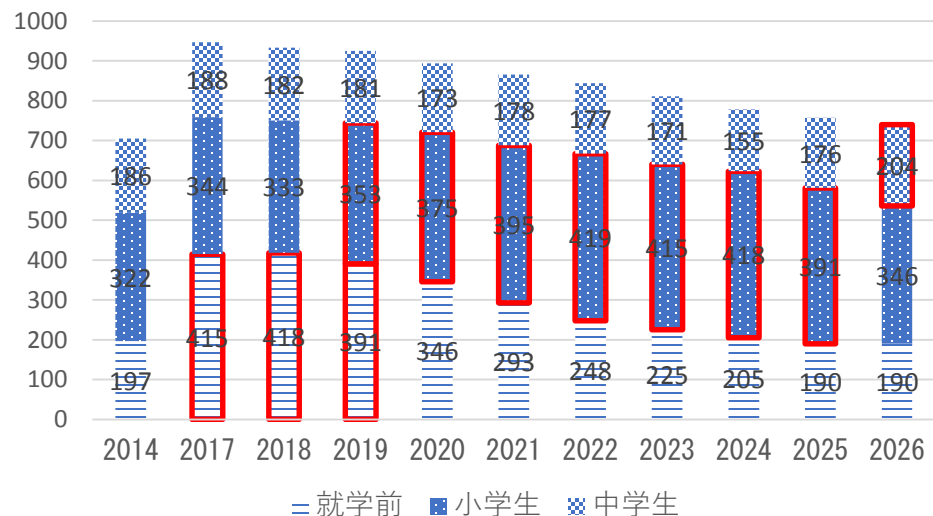
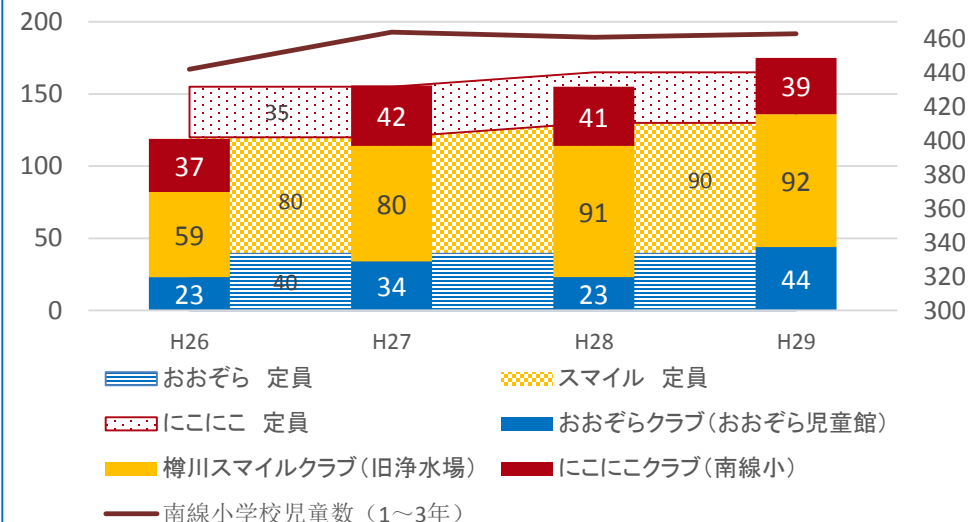


図2

南線小学校区クラブ児童数の状況



中高生や子育て中の母親の居場所ニーズ

図 3

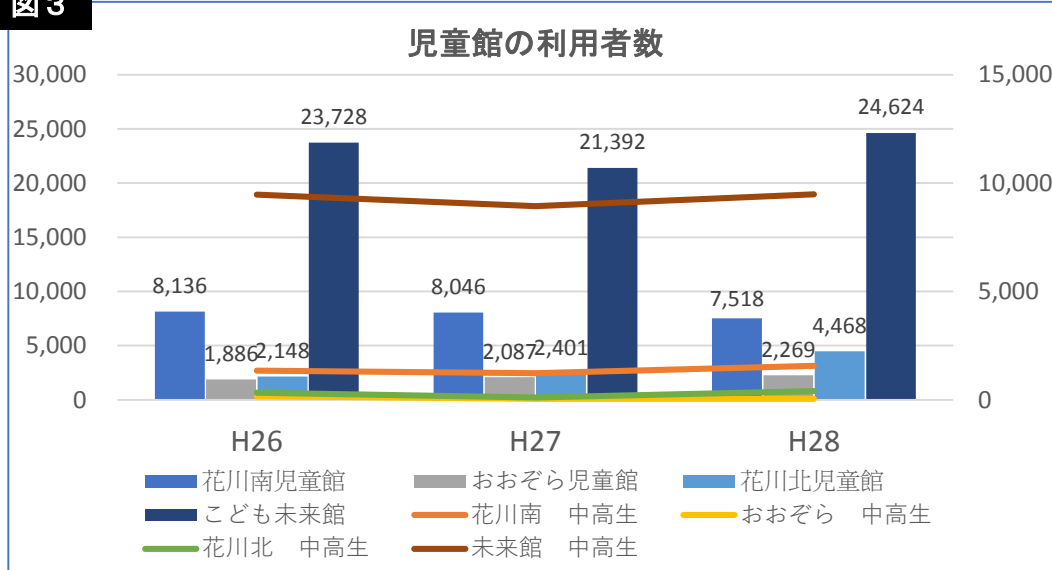


図 4

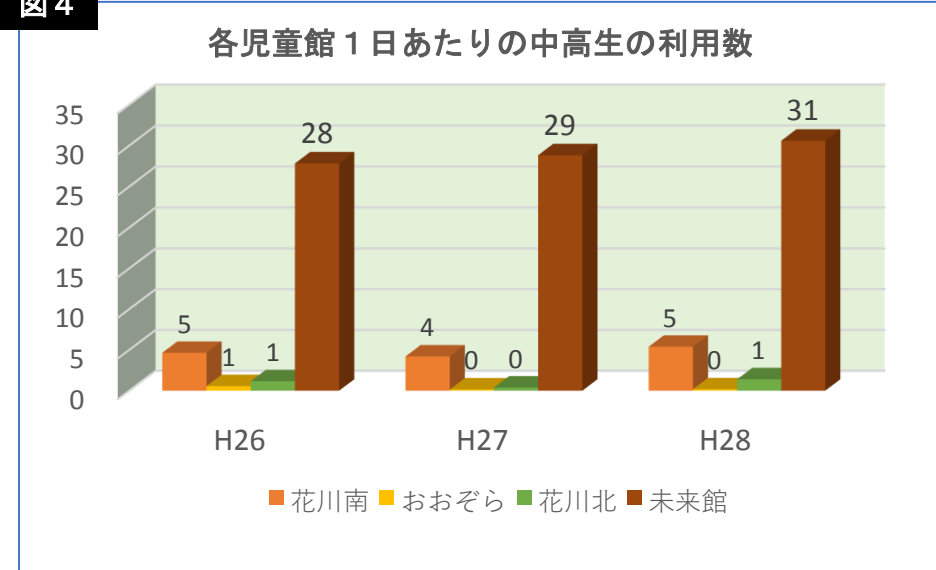
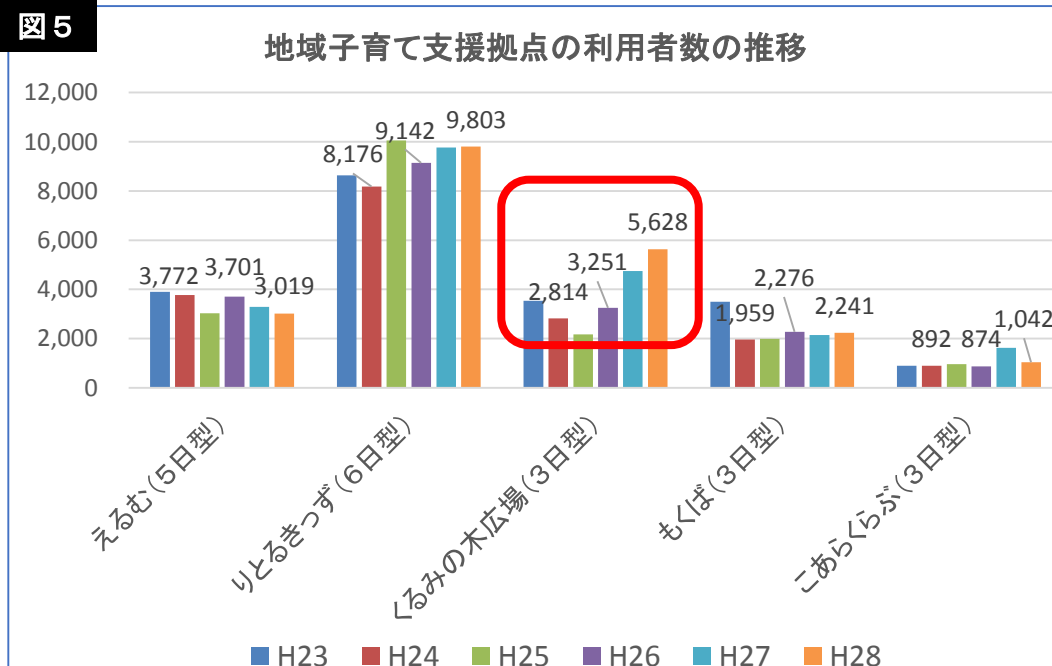


図 5



- あいぽーとを利用する中高生は増加傾向にあり、花川南中・樽川中校区からも多く利用している
- 中高生を想定した「大型児童センター」の機能を有する児童館はあいぽーとのみであり、今後南エリアでの中高生の居場所を考えていく必要がある
- 花川南・樽川エリアをカバーする「くるみの木広場」は近年乳幼児連れの母親の利用が増加
- 樽川エリアは若い世帯が多いにも関わらず、子育て支援拠点機能の空白地帯であり、予てから拠点を求める声がある

事業背景

- ①樽川5条エリア児童数の増加に伴う、放課後児童クラブの量の確保
- ②子育て支援拠点機能の設置要望
- ③花川南・樽川エリアにおける中高生の居場所（子ども議会提案）
- ④健康増進、地域コミュニティ機能の確保
- ⑤都市公園ストックの効果促進（子育て、健康、防犯等）

周辺施設等

【放課後児童クラブ】 樽川スマイルクラブ（旧浄水場）
にこにこクラブ（南線小学校内）

【児童館】 おおぞら児童館

【集会所】 パストラル会館 樽川南第一会館

【公民館】 公民館樽川分館

【都市公園】 石狩ふれあいの杜公園

【コミュニティセンター】 花川南コミュニティセンター

子育て世帯の定住が進む樽川エリアにおいて、子ども・子育て支援機能をはじめ花川南も含めた中高生の居場所について、健康増進や地域コミュニティなど全世代交流の視点も併せてニーズや可能性の調査検討を行う。

(1) 現況、課題の抽出（データ収集、関係所管からヒアリング）

- ・ 周辺エリアにおける子ども子育て環境の状況
- ・ 既存施設の利活用可能性
- ・ 公園の利用状況、施設を含めた機能方策、法的要件（都市公園法、適化法、関係条例等）の整理
- ・ 健康増進施策との関連

(2) ニーズ・可能性の把握（アンケート、WSの実施）

- ・ 樽川エリアの子育て家庭における課題・ニーズ
- ・ 中高生の居場所リサーチ（花川南中、樽川中、石狩南高校）
- ・ 地域、各種関係団体からのヒアリング、市民ワークショップの開催

(3) 機能の整理・まとめ

- ・ (1)、(2)を踏まえ、機能（ハード、ソフト）の必要性、実現性、方向性の整理

子育て世帯と若者に関する生活実態調査【予算要求額 2,911千円】

1. 調査の目的

- ①昨年度実施した「子どもの総合支援に係る所得等調査」を踏まえ、統計的なデータでは把握できない生活面、経済面での課題やニーズ等を把握し、子どもの居場所や貧困問題等を検討するための基礎資料とする
- ②「子ども子育て支援事業計画」が平成31年度で計画の最終年度を向かえるため、就労や保育、子育て等に関する課題・ニーズを把握し、次期計画策定の基礎資料とする
- ③若者の子ども時代と現在の生活実態及びニーズを把握し、今後の支援、施策を検討するための基礎資料とする

2. 方法

上記の①②と③を分けてアンケートを実施する。対象世帯に郵送または学校等を通じて配布・回収を行う。

【①、②について（以下、「子ども・子育て調査」という。）】

- (1) 就学前世帯（無作為抽出）
- (2) 小学1年生～3年生及び5年生の世帯
- (3) 中学2年生の世帯
- (4) 高校生（無作為抽出）

【③について（以下、「若者調査」という。）】

- (5) 15歳～39歳まで（約3,000人を無作為抽出）

※①②調査と③調査の対象世帯が重複しないよう留意



3. 調査予定内容

【子ども・子育て調査】

●収入額、手当等を受給状況 ●住環境 ●剥奪指標 ●就労、保育ニーズ ●健康状態 ●保護者、子どもの意識

【若者調査】

●小中学校時の家庭の状況及び現在の家族構成や健康状態など ●高校や大学などの状況（進学率、中退率など） ●現在の生活状況（正職員、アルバイト、無職、ひきこもりなど） ●小中学校時の生活環境による現在の気持ち・生活態度・意識への影響 など